

Q<sub>9</sub>

## 抗がん剤治療のあと、 じんま疹がでることは ありますか？

じんま疹は、通常は1～2時間で消えていきます。つまり、「点滴中に、体中にじんま疹がでたが、家に帰ってきたら消えていた」というのが、典型的なじんま疹です。「昨日点滴が終わって家に帰ったら、夕方から全身に赤みが出て、今も消えずに残っている」というのは、いわゆるじんま疹ではなく、薬疹（薬剤によって生じたさまざまな皮膚疹）の可能性があります。

薬疹としてのじんま疹もおこることがありますが、注意が必要なのは、抗がん剤投与中におこるアナフィラキシー様ショック症状の1つとしてみられることです。点滴中にじんま疹を生じたら速やかに看護師に伝えてください。

また分子標的薬と呼ばれる抗がん剤の中には、特徴的なアレルギー反応である「インフュージョン・リアクション」をおこしやすいものがあります。インフュージョン・リアクションとは、抗がん剤投与中から24時間以内に発熱、悪寒、吐き気、頭痛、関節痛、発疹（じんま疹）などをおこす反応で、通常は軽微～中等度の症状ですが、アナフィラキシー様ショックなどの重篤な症状を引き起こすこともあります。

抗がん剤治療期間中にじんま疹のみならず皮膚疹（持続する紅斑、丘疹、紫斑など）が生じた場合は、主治医に速やかに伝えてください。皮膚疹によっては、かゆみを伴わないものも多く、自分で気づきにくい場合があります。注意が必要です。（増口信一）

